

## 令和5年度「知事と市町長の円卓対話」（名張市）概要

- 1 対話市町 名張市（名張市長 <sup>きたがわ</sup>北川 <sup>ひろゆき</sup>裕之）
- 2 対話日時 令和5年11月4日（土）10時30分から11時30分
- 3 対話場所 名張市防災センター 2階防災研修室（名張市鴻之台1-2）
- 4 視察場所 FLATBASE（名張市元町433-8）
- 5 対話項目

（1）名張市が進めるシティプロモーション戦略について

（2）「なばり EXPO チャレンジ」について

- ① バリアフリー観光について
- ② インバウンド誘客について
- ③ フィリピンとの連携について

### 6 対話概要

対話項目（1）名張市が進めるシティプロモーション戦略について  
（市長）

名張市で取組を進めている「シティプロモーション」についてお話をさせていただきたいと思います。

名張市は、赤目四十八滝をはじめとする観光、全国的にも知られることになった地域づくり、名張版ネウボラに代表される子育て支援などを充実させてきたところ

です。  
名張市には、人、歴史、文化、観光など、たくさんの魅力、誇れるものがあると思います。しかし、市民の皆さんに全て知っていただいているかというところではないところがあります。また、名張市外、三重県外に、名張市の魅力、強み、よさを十分に発信できているとは言えず、名張市の素晴らしさをもっと知ってもらう必要があると考えています。

市民の皆さんに名張市の魅力、よさ、強みを再認識していただき、市民の皆さん自らが主体的に発信をしていただきたいという思いで、シティプロモーションの取組を進めています。

具体的には、今年度、約40人の方に参加していただき、「ブランドイメージ創出ワークショップ」を行ってきました。10年先、20年先の名張市を担う若い世代の方を中心に、名張市の魅力を再発見していただき、名張市のブランド力を高めたいということで、名張市のよさを議論し、出し合ってもらってきました。

また、名張市の新しいキャッチコピーやロゴマークの策定に取り組んでおり、今後、いくつかの案の中から市民の皆さんに選んでいただこうと考えています。令和6年3月に、名張市は市制70周年を迎え、記念式典を実施させていただく予定で、その中で選んでいただいたキャッチコピーやロゴマークを発表していきたいと考えています。

こうしたものを活用しながら、市民の皆さんと思いを共有し、名張市外や三重県外へ名張市のよさを発信していきたいと考えています。それにより、移住や関係人口を増やしていき、人口減少下の中でも名張市が持続的に住みやすさを実感できる場所であるようにしていきたいと思います。

知事は、人口減少対策を重要と考え、就任当初から取り組んでいただいています。また、プロモーションについても力を入れていくと言われていただいているので、そうした点について、県の取組や知事の思いを教えていただくとともに、名張市と一緒に進めていただくようお願いしたいと思います。

(知事)

名張市にも三重県にもよいところがたくさんあります。

今年度、県庁の中に「三重県プロモーション推進本部」を設置し、活動を始めています。

名張市の人もそうだと思うのですが、三重県の方は、あまり前に出ず、遠慮する傾向があると思います。これからは、それではいけません。

先日、東京へ出張で行き、表参道を歩いてきましたが、外国人が多いです。また、奈良や京都でもオーバーツーリズムが問題になっていますが、外国人が多いです。ところが、三重県では、伊勢でもそれほど外国人は多くありません。

人口が減少していく中で経済力を維持するためには、外の人に来ていただき、消費してもらうことが必要です。三重県のよいところを積極的に発信していく必要があります。

日本はもちろん、外国にもない、そういう素晴らしい景色が三重県や名張市にはあります。それをどのように宣伝していくかが大きなポイントですので、名張市で取り組んでいる「なばり新時代戦略」の基本理念である「語れるまちなばり」はとてもよい考え方であると思います。

三重県にずっと住んでいた人には、三重県のよさは、あまりわかりませんが、三重県から外へ出ると三重県のよさがわかってきます。名張市出身の人で、名張市から外へ出た人に来てもらい、名張市のよさを話してもらうこともよいかと思いません。

県では、令和4年4月に人口減少対策課を設置しました。

人口と経済力は比例しますので、人口が減っていけば、経済力は落ちていきます。人口を増加させるのは難しいですが、減少のペースを緩やかにしていく必要があります。その間に効率化を進め、経済力を維持できるようにしていかなければなりません。

県では、令和5年8月に47都道府県で初めて人口減少対策方針を策定しました。ただし、人口減少対策として目の覚めるような方策はありませんので、地道な取組をしていくしかありません。

三重県の人口は、約174万人ですが、そのうち15歳から29歳までの女性は

約6%です。また、三重県から県外に出ていく人、また県外から三重県に入ってくる人がいますが、差し引きすると、年間約4千人が県外に出ていっていることになり、出ていく人の方が多いです。また、このうちの約2千人が15歳から29歳の女性で、人口では約6%の構成比率しかないにもかかわらず、出ていく人の約半分を占めています。

女性に残っていただく、あるいは三重県へ帰ってきていただく方策を考える必要があります。

三重県は、フルタイムの仕事に従事する男性と女性の給与差が全国で一番大きく、これには、男性の給与が高いということもあるのですが、女性が働く場所が男性ほどないということがあります。

女性に帰ってきていただく、とどまっていただくということと言うと、雇用というものは大事ですので、雇用という観点からも、名張市では今も取り組んでおられますが、産業を誘致してくることが重要で、そのためにはインフラ整備も大事かと思えます。

まずは、名張市民がアイデンティティを持ち、名張市を好きになっていただき、どんどん発信していただく。そして、そこにとどまり、働いていただけるような環境を作っていくことが大事かと思えます。

名張市と県で一緒によいところを積極的にプロモーションしていきたいと思えます。

## 対話項目（2）「なばり EXPO チャレンジ」について①～③

（市長）

名張市は、住宅開発が進んで大阪のベッドタウンとして大きくなり、人口は最大で約8万5千人になりました。現状では、全国の流れと同様に、残念ながら人口が減少しており、約7万5千人になっています。

このような状況で、どのように名張市を元気にしていくかと考えたとき、今ある資源を活用していくことに着手していかなければならないという思いで、観光産業をおこしていくことを重要なプロジェクトと位置づけています。

名張市民でも気づいていない観光の魅力は、たくさんあります。赤目四十八滝の魅力を発信して、観光誘客をしていきたいですし、赤目の観光地だけではなく、例えば、関連する交通手段、新しい土産物をつくる事業者、農業も含めた食を提供する事業者など、あらゆる産業の皆さんに観光産業に関わっていただき、経済の好循環を作りたいと考えています。

2025年の「大阪・関西万博」には2千万人から3千万人くらいのお客さんが来られると見込まれることから、このチャンスを生かしていきたいと考えており、令和5年5月に「名張市産業活性化推進協議会（ナウダツ）」を設立し、新しい旅行商品や土産物を作ろうとしています。

名張市の観光の現状は厳しく、赤目四十八滝の観光入込客数は平成4年がピーク

で35万人近くあったのですが、現在は10万人を切るところまで来てしまいました。

観光産業として成り立たせるためには、滞在日数、観光消費額が伸びていかなければならないと考えていますが、伊賀地域は滞在日数も旅行単価も三重県内で最も低い状況です。10万人が訪れたとして計算すると、伊勢志摩では約23億円使っただけの状況に対して、伊賀地域では7億円しか使っただけの状況です。その差は16億円であり、この差をなんとか埋めていきたいと思っています。

名張市の観光についてのアドバイザーとして、水族館プロデューサーの中村元さんに来ていただいて、国の特別天然記念物のオオサンショウウオの展示あるいは生息環境の保全など、また赤目、青蓮寺、美旗などのさまざまな地域の観光戦略についてアドバイスをいただいています。

中村さんは、バリアフリー観光でも三重県をけん引してきた方であることから、そうした点についてのアドバイスもいただいています。中村さんから、平日昼間にたくさんの観光客に来ていただくためには、高齢者や障がいのある方をターゲットにしていくべきとの助言をいただきました。そこで、名張市では、赤目を中心にバリアフリー観光に力を入れていこうと考えているところです。

赤目四十八滝は、県が管理する国定公園内にあることから、赤目四十八滝内の遊歩道の整備や車いすの転落防止策など、バリアフリー化に向けての整備をぜひ一緒に検討いただけないか、観光に対する知事の思いも含めてお話いただきたいと思えます。

(知事)

人口減少をなんとか食い止めなければならないのですが、その減り方が緩やかになるまでの間、たくさんの人に外から観光に来てもらって、お金を使っただけことが大きなポイントです。

雇用の場所を含めて産業を誘致していくことは大事ですが、これにはインフラがある程度整っている必要があります。これはすぐには難しいことから、その間にできることは観光であると思えます。

奈良県では、産業にはすぐには来てもらえないということで、観光振興を進めようとなりました。奈良県の課題は宿泊施設が少なく、奈良で観光しても宿泊するのは大阪や京都になり、お金はそちらへ落ちてしまうということでした。そのため、奈良県では宿泊施設の誘致を進め、今では奈良県にはたくさんの外国人が来ており、お金も落ちています。このように、奈良県が一つのモデルになるかもしれないと思いました。

滞在してもらうため、宿泊施設は大事なのですが、これからの観光は体験が重要です。観光に行って物を買って帰るだけではなく、人に語れる体験をしたいと思う人は多いと思えます。

今、お金を持っている高齢者を観光のターゲットにし、そのためにバリアフリー

化を進めていくということは重要だと思えます。市長が言われた赤目四十八滝は、素晴らしい滝です。赤目四十八滝を見ていただくためには、バリアフリー化も大事なことだと思えますので、今後十分に協議し協力できることを考えていきたいと思えます。

(市長)

体験については、特に外国人には、スピリチュアルなものが人気があるということで、赤目四十八滝の全行程の中ほどのところでヨガや修験道の体験などをしていただけるようなプログラムを組んでいます。

もう一つ考えているのは、国の特別天然記念物であるオオサンショウウオです。オオサンショウウオは、外国では見られない地域が多いと思えます。その生息地、環境をSDGsの観点から守っていくことも大事ですし、同時にオオサンショウウオを知ってもらわなければいけません。知事が先ほど言われた体験という意味では、専門家と共にオオサンショウウオの生息地へ行き、見つけて、体長を測定するなどの体験をしていただくメニューを考えています。ぜひ三重県と一緒に進めていきたいと思えます。

最後に、今年の夏に、私はトップセールスとしてフィリピンを訪問しました。ENN（東奈良名張ツーリズム・マーケティング）という団体を作り、構成団体とともにインバウンドの誘客をしているのですが、フィリピンでの大きな目的の一つは、フィリピントラベルマートという大きな旅行の祭典において、その宣伝に行くことでした。日本から唯一ブースを認めていただき、宣伝することができました。

もともと赤目四十八滝を中心にファミトリップというモニターツアーを海外のエージェントにも来ていただき、実施している中で、フィリピンの旅行会社と連携が密になり、その旅行会社の紹介で、今回フィリピンに行かせていただいたところでした。

PRの成果として、この冬には、フィリピンの旅行会社6社が、ENNが行うファミトリップに来ていただけることになりましたので、しっかりと宣伝をしていきたいと思えます。また、窓口になっていただいている旅行会社の社員旅行でも名張市に来ていただけると聞いています。

三重県も、いろいろな国に対してアプローチをしていただけていますが、インバウンドに関して、我々は、フィリピンをターゲットとして取り組み、突破口を開いていきたいと思えますので、県も観光の計画の中にフィリピンをターゲットに加えていただき、一緒に誘客できるように進めていただきたいと思います。

また、パーペチュアル・ヘルプ大学を訪問しました。この大学では、特に英語と日本語の勉強に力を入れています。名張市は、この大学と連携協定を進めていきたいと考えており、名張市にある県立高校の学生と行き来ができることよいか思っています。お互いの教育研修旅行や留学などにもお力添えをいただ

きたいと思います。

フィリピンは、人口がどんどん増えています。人材があふれている国と人材が不足している国、単純に言えば、これを足して2で割ればよいと思います。当然、さまざまな制度上の制約はありますけれども、我々は介護や保育など、さまざまな分野で人材が足りない中で、将来的にはそういったところの人材確保にも結びつけていきたいと思っています。

いろいろな意味で、県の戦略の中にフィリピンをターゲットの一つに加えていただきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

(知事)

観光について、付け加えさせていただきますと、観光産業は、女性が働く場が比較的多く、女性が三重県や名張市を出ていくことをどうくい止めていくかという点でその役割は大きいと思います。

オオサンショウウオに着目することについては、外国人はSDGs、自然環境にたいへん関心があるので、非常によいことだと思います。

フィリピンの人口はどんどん増えており、若い人が多く、活力がある国です。

東南アジアの国で観光客に来てもらおうと考えたとき、着目される国は、シンガポール、タイ、マレーシア、インドネシアといった国民所得が高い国や人口が多い国になり、フィリピンに着目するところはあまりないと思います。そういう意味では、今からターゲットとして取り組んでいくのはよいことだと思います。

旅行で滞在してもらい、体験をしてもらうことが大事ですし、フィリピンの人に合ったツアーを作っていくこともよいと思います。私もフィリピンの人がどういったものに興味があるのかがわからないので、これからそういったところを調べていくというのも大事かもしれません。

フィリピンから日本に来てもらう人の数は、それほど多くはありません。外国人延べ宿泊者数では13位で、多いのは、中国、台湾、韓国、アメリカです。フィリピンは、人口が増加していきますので、これから来ていただく人を増やしていくことは大事です。

日本は、今後どんどん人口が減っていきますが、介護を受ける人の数はどんどん増えていきます。友好協定を結んで、名張市はフィリピンに優しいところであると認識してもらえれば、名張市で働きたいという人も増えてくるのではないかと思います。

例えば、名張青峰高校は、オーストラリアと姉妹校提携を結んでいますが、まだ提携などをしていないところもあります。フィリピンの人たちに名張市のよさをどのように売っていくかを考えていくことは重要なことだと思います。また、県も支援させていただきたいと思います。